

卒業論文

若者における高齢者介護意識の規定要因

平成 19 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人文科学コース

社会学・地域福祉社会学分野

平成 23 年 1 月 7 日提出

## 要約

本論文では、福祉系学校の学生ではない、一般的な大学生を対象に、高齢者介護における意識の形成要因に関する分析を行っている。

まず、第1章では、現在の介護に関する動向について論じている。高齢化率や社会保障給付費の推移について言及し、在宅での介護が見直されている状況下にあることを確認した。さらに、介護者・被介護者における望ましい介護形態について言及し、現状の整理を行っている。

第2章では、特に、若者世代に限定して、介護者としての立場から望ましい介護形態について、その意識を確認した。その結果、若者における介護者としての意識が、被介護者の意識と乖離している状況にあった。介護負担から生じる問題について言及し、乖離していない現状においても虐待をはじめとした問題が生じているが、乖離している状況下では、さらに深刻な問題になることが考えられる。そこで、若者の介護意識を規定する要因を明らかにする必要性があることを論じた。

第3章では、先行研究のレビューを行いながら、仮説で用いる介護意識を規定する要因についての説明を行っている。特に、本論文では、「祖父母」や「親」との関係性に注目している。さらに、先行研究では、福祉系学校の学生を対象とした研究がほとんどであり、介護実態について十分に認識しているという前提があったが、介護実態についての認識差が、介護意識に影響を与えることは十分に考えられると判断し、独立変数として設定した。ここで言及した変数をもとに、最後に仮説の設定を行っている。

第4章では、「若者における高齢者介護意識の規定要因」本調査の概要について説明を行っている。調査方法、調査時期、質問項目に言及している。また、分析に用いる変数の説明を行っている。最後には、分析で用いた変数を一覧にした表を載せている。

第5章では、線形重回帰分析を行い、仮説の検証を行っている。さらに、仮説以外の独立変数の結果についても言及し、その後分析全体を通じた考察と今後の展望について論じて、本論を締めくくっている。

## 目次

はじめに	1
第1章 高齢者介護における社会背景と現状	2
第1節 高齢化の進行	2
第2節 社会保障費の増大	3
第3節 介護の定義	4
第4節 近年の介護をめぐる動向	4
第5節 在宅介護支援に向けた行政の取り組み	7
第2章 問題の所在	8
第1節 介護形態の決定権者	8
第2節 若者が望む介護形態とその動機	9
第3節 若者の定義	10
第4節 介護者における介護負担	11
第5節 介護負担から生じる問題	12
第6節 従属変数の決定	16
第3章 介護意識の規定要因	17
第1節 祖父母との同居	17
第2節 祖父母との関係性	17
第3節 親との関係性	18
第4節 介護実態の把握	19
第5節 仮説の設定	22
第4章 若者における高齢者介護意識の規定要因に関する研究	24
第1節 調査概要	24
第2節 変数の説明	26

第5章 分析	29
第1節 分析手法の解説	29
第2節 分析結果	29
第3節 仮説の検証	29
第4節 仮説以外の結果	31
第5節 まとめと今後の展望	33
参考文献	36
おわりに	38

付録：本調査の調査票